

申請者	看護師	石渡 聖也
R5-01	重症心身障がい児(者)の安全な移乗介助に対する意識変化にむけて ～模擬体験を通して～	
研究の概要	入院中の重症心身障がい児(者)は、加齢に伴う骨量の減少に加え、重症児(者)特有の変形や拘縮により骨折のリスクが高い。当院には移乗介助の際のマニュアルがあるが、介助が重症児(者)中心ではなく看護師中心になってきていると感じる。そこで本研究では、看護している側が移乗介助の模擬体験を実施し、アンケートの調査から改善点を見出し、骨折の危険性、マニュアルと異なる移乗介助を実施していないかを見直すことで今後のケア向上につなげる。	
判定	条件付き承認	

申請者	看護師	東 由香
R5-02	重症心身障がい児(者)への泡を用いた洗身方法による肌水分量の変化	
研究の概要	重症心身障がい児(者)病棟の患者は、自力での保清、保湿が困難であり、皮膚の乾燥が著明で細かな鱗屑や脂漏性湿疹、皮脂欠乏症などの皮膚トラブルを引き起こしている。そこで、泡には皮膚への刺激を少なくする働きがあることから泡を用いて洗身を行い、洗身方法の見直し実施する。そして、重症心身障がい児(者)の洗身方法の見直しにより皮膚乾燥は減少し水分保有量は増加するのかを明らかにする。	
判定	条件付き承認	

申請者	看護師	下館 かつ子
R5-03	神経難病患者をケアする看護職者仕事ストレス尺度を用いたストレスの実態調査	
研究の概要	当院に入院する神経難病患者の多くは、日常生活に全面的な援助が必要となっている。そのためケアする看護職員は、不安や困難感、負担感も大きいことが推測される。そこで本研究は、安藤ら <sup>1)</sup> による「神経難病患者をケアする看護師における仕事のストレス尺度」を使用しストレスの実態を調査することで、具体的な不安や困難感、負担感の内容を明らかにし、その対応方策について検討ができると考える。そして、看護職者の持つどのような経験がストレスの要因となっているかを評価、比較検討しその特徴、実態を明らかにすることで、今後のストレス管理につなげる。	
判定	条件付き承認	

1) 安東由香子他：神経難病患者をケアする看護師における仕事ストレス尺度の作成 - 質問項目選定のための検討 - 広大保健学ジャーナル, vol. 8, 1-2, 2009

申請者	副看護師長	大澤 麗美
R5-04	動画視聴後の振り返りによる接遇改善への効果	
研究の概要	<p>医療における接遇は患者やその家族との信頼関係の構築や安全で質の高い医療の提供につながる。しかし、看護職員の接遇に対する意識調査から接遇マニュアルが自己の振り返りに活用がされていないことが明らかになった。越智ら<sup>1)</sup>は「ロールプレイング体験・内省的自己評価を行うことで接遇に対する意識向上の契機となり患者の満足度向上につながった」と述べ、自己の振り返りは大切である。そのため、病棟内で起こりうる接遇場面を動画撮影し、看護職員に視聴してもらい、動画視聴後の振り返りで意識が変化し、個々の接遇改善に効果があるのかを明らかにする。</p>	
判定	条件付き承認	

1) 越智智子：ロールプレイング体験を契機に取り組んだ接遇の見直し